

種	名	採 集 地	凍結 (-25°C) 融降を繰り返しても生存 できた期間	最終週 間の生 存率 (%)
ラン藻	<i>Oscillatoria rubescens</i>	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Schizothrix calcicola</i>	南 極	20 週間 以上	—
緑藻	<i>Ankistrodesmus convolutus</i>	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Chlorella</i> sp.	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Neochloris</i> sp.	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Stigeoclonium</i> sp.	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Protosiphon botryoides</i>	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Hormidium flaccidum</i>	ウイソコンシン	1 週 間	—
"	<i>Tribonema</i> sp.	ウイソコンシン	0 週 間	—
"	<i>Chlorella pyrenoidosa</i>	---	17 週間 以上	0.0005
"	<i>Bracteacoccus</i> sp.	南 極	16 週間 以上	0.16
"	<i>Stichococcus bacillaris</i>	南 極	19 週間 以上	0.005
"	<i>Neochloris</i> sp.	南 極	14 週間 以上	0.17
"	<i>Bracteacoccus</i> sp.	南 極	14 週間 以上	0.001
"	<i>Chlorella</i> sp.	南 極	17 週間 以上	0.02
"	<i>Chlorella</i> sp.	南 極	19 週間 以上	0.01

上の表からわかるように、普通土壌中や淡水中下層に附着している糸状のラン藻が生存率最も大きく、単細胞のラン藻は凍結により簡単に死んでいる。Chl. pyrenoidosa を除き、ウイソコンシンで分離した緑藻は凍結後の生存率は非常に悪く、ほとんど生存しないものが多かったが、南極産の単細胞緑藻は凍結後の生存率は非常に高い。その他、Chl. pyrenoidosa (34×10^6 細胞濃度) を -25°C に長期間貯蔵して、その耐凍性の減少をしらべているが、367 日後生きていた細胞は見られなかった。

(照本勲・北大低温科学研究所生物学部門)

新 著 紹 介

ブルン及びトムペール著 日本産化石珪藻類〔金谷太郎(要旨補訂)(英文)〕

J. BRUM et J. TEMPÉRE (1889): Diatomées fossiles du Japon, by Taro KANAYA

日本古生物学会(東大理学部地質学教室内)が「日本重要化石の図説」(A survey of the fossils from Japan illustrated in classical monographs)として、日本の地質学の初期において研究報告された化石生物についての原著10篇の図版の部分と同会の創立25周

年記念事業として翻刻した中に含まれた化石珪藻類の部分で、この原著は J. BRUN et J. TEMPÉRE (1889): *Diatomées fossiles du Japon* (mémoires de la Société de Physique et d' Histoire Naturelle de Genève, Tome XXX, No.9) である。この翻刻版は原著の本文は全部省略し、図版と学名だけであるが、学名は原著が発行された後に属名などが変わったものは新しい学名も付記されている。金谷博士がこの原稿執筆中に参考にされた文献や学名などについて私にも照会があり、いささか協力して上げたところもあったので、発行と同時に一部を寄贈して下さった。ただしこの翻刻版は珪藻類のところだけは分売されておらず、他の化石の記事と合わせて10篇を掲載したものが1冊になっていて、定価は4,500円である。

(津村孝平)

バンデルヴェルフ及びフルス著オランダ産珪藻類

A. VAN DER WERFF en H. HULS: *Diatomeeën van Nederland*. (1957-)

16×22 cm のアート紙の片面(裏面は空白)の上半部に珪藻の図を、その下半部に学名および *Habitus*, *Structuur*, *Dimensies*, *Ecologie*, *Presentie* および *Fossiel* などの項に分けて要旨を簡潔に印刷したものを約60枚ずつまとめて1回分の配本としているもので、1957年から1963年までに *Aflevering* 1~7までが発行されており、全部で *Aflevering* 1~10で完結するはずである。現在までの配本の中に珪藻類の術語解や分類表なども含まれているが、著者の1人 A. VAN DER WERFF 氏の私信によれば完結までの間に検索表なども加えられるそうであり、まだ2~3年かかるとのことである。なおこの書は上に書いたように片面印刷の截断したままの紙葉であって、掲載種も一定の順序なしに扱われていて、完結の上、分類の順序に並べて製本するようになっている。価格は1冊(1回配本分)が Hfl. 4.50 である。

(津村孝平)

第5回国際海藻シンポジウム開催のお知らせ

第5回国際海藻シンポジウムは、カナダ学術研究会議等の主催によって明1965年8月25日から28日迄カナダハリファックスに於て行はれ、広く海藻に興味を有する人達の参加が希望されている。実際に行はれる報告は海藻の次の諸問題に関するもので、英語又は仏語によって行はれたいとのことである。

生態、分類、生理、炭水化物、炭水化物以外の成分、代謝作用、食料としての海藻、農業への利用、海藻抽出物の製造、以上一般報告の他に少くとも3名の講演者による、現在海藻に関する重要問題に就ての講演が予定されている。

尚 8月23日—24日には Northumberland Straits の Pictou への Irish moss の採取、乾燥等視察を目的とした見学旅行が、又 8月29日—31日には、ノバスコシア地方の南西部 Digby 附近への採集旅行が行はれるとのことである。